



東風

〇月〇日

『明るく伸びる子』

○考える子 ○助け合う子 ○やりぬく子
○じょうぶな子

【重点目標】

なりたい自分に向かって、しなやかな心でやりぬく子

令和4年 11月18日発行

《令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果について》

4月19日に全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に行われた「全国学力学習状況調査」ですが、小学校では、国語・算数・理科の3科目での実施となりました。

今年度の本校の正答率を全道・全国と比較すると、**国語・理科で全道・全国平均よりも低く、算数では全道・全国とほぼ同様の結果**となりました。

教科の調査のほか、児童の生活や学習の様子、自分自身のことについて答える「児童質問紙」についても実施しました。

以下に、今年度の岩内東小学校における調査結果の概要とともに、結果の考察および今後の指導の重点などについてお伝えいたします。

なお、4月19日当日に調査を受けた児童は24名となっており、欠席等で後日実施した児童の分は含まない集計結果をもとにした考察となっております。

《国語の結果》

【全道・全国を上回った主な設問】

- 話し言葉と書き言葉の特徴を理解して、適切な文を選ぶこと
- 文章の構成や書き表し方に着目して文を整えること
- 漢字の書き取り(「反省」・「親しむ」)
- 漢字や仮名の大きさや配列に注意して書くこと

【全道・全国を下回った主な設問】

- ▲必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えること
- ▲互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめること
- ▲登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述をもとに捉えること
- ▲人物像や物語の全体像を具体的に想像すること

【分析と今後の課題】

全体の傾向から、漢字や言葉・文の組み立てや特徴など、「基本的な知識は身に付いているが、得た知識を積極的に使って話す・書く・伝え合うといった実践的な力が身に付いていない。」ということが考えられます。

今後は、音読や視写など「日常的に文を読む・書く」活動を継続するとともに、「友達の考えと比べながら説明する」「文章と資料を関連させながら発表する」など、知識を活用した言語活動の充実を図ります。

《算数の結果》

【全道・全国を上回った主な設問】

- 最小公倍数を求めること
- 百分率で表された割合を分数で表すこと
- 長方形やひし形の意味や性質、構成の仕方について理解すること

【全道・全国を下回った主な設問】

- ▲百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めること
- ▲「果汁〇〇%の飲み物」を例に、量が変わっても割合は変わらないことを理解すること
- ▲分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察すること
- ▲目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ること
- ▲正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述すること

【分析と今後の課題】

全体的な傾向としては、国語同様、基礎的な力や知識は概ね身に付いていると考えられますが、「知識を応用・活用につなげられていない。」ということが考えられます。

低学年のうちから「グラフや表などから分かることを話し合う」「考えをノートに書く」活動を授業に位置付けていきます。

《理科の結果》

【全道・全国を上回った主な設問】

- 昆虫の体のつくりを理解すること
- 観察などで得た結果を分析して、解釈し、自分の考えをもつこと
- 実験の過程や得られた結果を適切に記録すること

【全道・全国を下回った主な設問】

- ▲水と水蒸気の関係や光の進み方について理解すること
- ▲実験の方法を見直し、どのような手順にすればよいか考えをもつこと
- ▲実験用具の名前や使用方法(今回は「メスシリンダー」)

【分析と今後の課題】

理科については、筋道立てて実験の手順を考えたり、実験から分かったことをもとに、違う実験ではどのような結果になるかを予想するといった力に課題が見られました。

今後は、「自分の考えや分かったことをまとめる」「分かったことを生かして別な場面に当てはめる」といった活動を授業に位置付けていきます。

《児童質問紙から分かる傾向》

- 全道・全国に比べ、規則正しい生活の項目において課題が見られました。
- 「1日に4時間以上、テレビゲームやスマートフォンのゲームをしている児童の割合」や、「1日に4時間以上、スマートフォンでの動画視聴や SNS を利用している児童の割合」は、全道・全国よりも高く、各家庭での生活時間の見直しが必要と思われます。
- ☆一方で、「国語や算数、理科の勉強は好きだ・大切だ」と思っている児童の割合はいずれも全道・全国より高い状況にありますので、家庭と学校とが「生活リズムの安定」と「学校生活の充実」の両輪で子どもたちを支え、やる気を伸ばしていくことが、本校にとっての課題であると思われます。今後とも、子どもたちにとって望ましい生活環境作りにご協力をお願いいたします。